

# 2019 (H31)年度 筑前町立中牟田学校 学力向上プラン

■視点1-②

《中期目標》 目的意識を持って挑み、考えを表現して課題解決し、やりとげる子どもの育成  
 〈成果指標〉 平成34年度の全国調査の標準化得点:国語100 算数100以上

《短期目標》 習得した基礎・基本を使って、課題を解決する子どもの育成  
 〈成果指標〉 平成32年度の全国調査の標準化得点:国語100以上 算数100以上  
 (平成32年度福岡県学力調査【中1】において、県標準化得点 国語100 数学100 以上)

■視点5

【家庭・関係機関との連携】

〈取組(指標)〉

○家庭学習とことん週間(小中連携)の実施(学期2回)

〈成果(指標)〉

◆保護者にサインをもらう家庭学習とことんカードの自己評価(達成率80%以上)

■視点2

【授業づくり】

〔考えを書く力の育成〕

〈取組(指標)〉

○主述が対応した正しい文で、自分の考え(結論と根拠)を構成を指示して学習の「振り返り」を書く活動を実施する。(実施率60%)

〈成果(指標)〉

◆児童のノートチェック「『振り返り』を3文以上で書くことができる」

〔話し合う力の育成〕

〈取組(指標)〉

○ペアや全体で、「発表の仕方」を使って自分の考え(結論と根拠)を比較しながら話し合う活動を実施する。(実施率60%)

〈成果(指標)〉

◆児童アンケート「自分の考えを友達に説明している」(3以上:4段階尺度)

■視点4

【教員の意識・指導力の向上】

〈取組(指標)〉

○学力調査を検証するための自校採点を活用した校内研修の充実(年2回)

○小中合同研修会の実施(中学区合同研修会1回 学力向上推進協議会2回)

〈成果(指標)〉

◆教職員アンケート「自校採点の結果をもとに授業づくりをしている」(3以上:4段階尺度)

■視点3

【学力基盤づくり】

〈取組(指標)〉 ○単元テスト前に、知識・技能定着の練習をやりとげる1時間を位置付けた単元計画を実施する。(週指導計画に記入)  
 ○単元テストを30分で実施し、前15分に復習する「プレタイム」か後15分に補充をする「アフタータイム」を設定する。(実施率80%)

〈成果(指標)〉 ◆児童へのアンケート(「にがてな学習もあきらめない」3.5以上:4段階尺度)  
 ◆単元テスト(80/100点到達児童100%を目指す)

■視点1-①

全国学力・学習状況調査結果及び児童生徒による授業評価から見た課題

要因(授業づくりやその他学校の学力向上の取組)

標準化得点	国語A	国語B	算数A	算数B	・国語AB「話すこと・聞くこと」に課題H30 ・算数「式の意味」を考える力H30 ・中位層(C層)の割合が全国より大きい傾向H30	・考えを比較しながら話し合う技能の定着が不十分 ・基礎・基本が定着していない児童(C・D層)に対する補充的な指導が不十分 ・書く内容の中心と構成を決めて書かせる場の不足 ・諦めずに最後まで回答し、やりとげた達成感を味わう学習の場の不足
	99.1	103.8	108.5	105.9		
質問紙調査等	・全国学質問紙 「書く問題にどのように解答しましたか」(諦めたものがあつた23.9%) 「自分にはよいところがあると思いますか」(当てはまる全国比-10.8)					